令和２年度　合唱祭

唱逢（しょうぶ）～今こそ見せよう 新中魂～

合唱祭を終えて

一年　前島　瑛登

合唱祭を無事に終えることができて、本当に良かったです。

合唱委員として活動する中で気がついたことがあります。それは、他人任せにせず、一人一人が意見を出すことで、最高の合唱にすることができるということです。これからも、お互いにアドバイスをしたり、注意をし合ったりしながら、様々な学校行事を楽しみ、盛り上げていけたらいいと思います。

初めての指揮者

二年　沼澤　塁人

「みんながやってほしいと言ってくれるのなら、精一杯やってみよう。」今年僕は初めての指揮に挑戦した。腕の振り方もわからず、始めはみんなに笑われたこともあった。でも応援してくれたのもみんなだった。本番を終えた時、大きな達成感と自信が胸の中に湧いた。

指揮をする前までは「何か他のことにも挑戦してみてもいいな」などと思ったことはなかった。でも、もし挑戦したら、自分の何が変わっていくのか、わくわくしている自分を今感じている。

最後の合唱祭で得たもの

三年　坂川　亜海

中学校生活最後の合唱祭。私たち三Ｂは『チェリー』を歌いました。「騒がしい未来が僕を待ってる。だから前に進もう。」というメッセージが詰まった歌です。練習はいつも笑いが絶えず、温かい雰囲気でした。本番は緊張しましたが、皆と励まし合い、心から楽しめました。

もうすぐ卒業ですが、最後の合唱祭を通して、いつかまた会いたいと思える仲間になれたと思います。

ホール全てをステージに ―今年の全校合唱

矢口正義会長さん 今まで新中を応援して下さりありがとうございました

新中を応援する会の会長として、長年にわたって新庄中を見守り、導いてくださった矢口正義さんが、今年度をもって会長職を退かれることになりました。合唱祭の前に新庄中全員と保護者の皆さんで、感謝のセレモニーを開催しました。

矢口会長さんの後任は阿部彰さんが務めます。これからもよろしくお願いいたします。

各部長が振り返る新人戦

無観客試合、コロナ禍での制限の中、先輩たちの思いを引き継ぎ戦いました！

野球部

新人戦を経験して

髙橋　光

今回は吹奏楽部の応援もなく、いつもとは違う少し静かな大会でした。僕はこの大会で、いつも普通に野球ができていることのありがたさを感じました。

普通への感謝の気持ちを忘れず、部活動に取り組んでいきたいです。

男子バスケットボール部

できることをしっかりと

赤間　歩夢

新人戦では、自分たちはコロナ対策のため充分な練習ができず悔しい結果となりました。コロナで練習時間が少なく、チームプレーをすることが少し難しかったです。次の大会がどうなるのか不安ですが、今のチームでできることを精一杯やりたいと思いました。

女子バスケットボール部

大会で学んだこと

髙橋　心華

大会が開催されたことに感謝して試合に臨みました。思い通りの結果を残すことができてうれしかったです。また、「速攻をもっと速くできるようにする」という目標ができたので、練習から試合を意識して取り組んでいきたいです。

男子バドミントン部

新たな挑戦

星川　晴琉

今回は、声を出しての応援禁止を始め、色々な制限の中での大会でした。いつもとは違う雰囲気に、誰もが感じたことのない緊張がありました。

コロナ禍で試合ができたことに感謝の気持ちをもってプレーをしました。

女子バドミントン部

悔しい思いを胸に

阿部　夏美

今回、声援やハイタッチなどができない中での開催でした。開催できることに感謝して、自分たちらしいプレーをすることができました。精一杯臨んだものの、悔しい思いをした人もいました。その思いを胸に、中総体に向けて練習したいです。

バレーボール部

選手じゃなくても

栗田　穂香

今回私たちは「生徒役員」としての参加でした。記録、ボール渡し、消毒、選手が全力でプレー出来るよう、全力でサポートしました。選手として出場は出来なかったものの、大きな成長になったと思います。

剣道部

不安に打ち勝つ

渡邊　水稀

今回の新人戦は、マスク着用と選手と関係者のみの入場という、いつもと違う光景でした。マスクを着けて試合をするので、息がすぐ苦しくなりました。また、試合の形が変わったり、制限が増えたりして、これから剣道がどう変わっていくのだろうと思いました。

サッカー部

信頼

髙橋　侑吾

今回、僕が学んだことは、信頼し合う事です。サッカーは、互いを信じあって初めてパスがつながるスポーツです。コロナウイルスの影響で制限された一年でしたが、試合では思うがままにボールを追いかけることができました。このメンバーでプレーできて僕は幸せです。

男子ソフトテニス部

感謝の気持ちを持って

中里梨音斗

今回の新人戦は、声を出す応援は禁じられ、拍手のみの大会となりました。しかし、この状況下でも大会を開催して下さった方々へ感謝の気持ちを持って、練習してきたことをすべて出して試合をすることができました。

女子ソフトテニス部

ペアとの信頼

加藤　伊純

今回の新人戦では、大きな声での応援ができず、試合中に仲間の声援を感じることはできませんでした。しかしその分、部員みんなが、ペアとの信頼関係をより大切に感じ、また試合ができる事への感謝の気持ちを胸に、大会に挑むことができたと感じています。

ソフトボール部

活動が制限された中で

阿部　珠音

今回の新人戦は、日新の三年生と合同チームで行いました。コロナ感染拡大防止対策で、普段の部活で行動が制限され、いつもと同じ活動が出来なくなり、試合への不安が高まりました。

吹奏楽部

来年度こそは会場で

那須　理子

今年度のアンサンブルコンテストは「動画審査」になりました。会場に行けない分、チャンスは一度きりではなく、自分のベストを見せることができた機会でした。カメラに見つめられ、さらに審査員の方々にこの動画が見られると思うと緊張しましたが、今の実力をふりしぼって臨むことができました。

総合文化部

今、大事なこと

井上　七緒

世界がコロナで大きく変わり、不安な気持ちでいっぱいの一年でしたが、明るい笑顔で活動している部員を見て、とても支えられた一年でもありました。辛い時こそ明るい笑顔でいることが、今、大事な事だと思いました。

空手部

新人戦で感じたこと

髙橋　千咲

今回の新人戦では、応援の禁止や人数制限などといった注意があった。いつもと違う試合はなかなか慣れずやり辛さを感じた。しかし、会場がどんな状況でも頑張ることを経験できた大会だったと思う。

水泳部

練習することの大切さ

木村　理緒

八月に県全体で中高合同の大会が行われました。全力で泳ぐことはできましたが、練習期間が短かったこともあり、自分たちが望むような結果になりませんでした。日頃からの練習が良いタイムを出すために最も大切なのだと感じました。

相撲部

新人戦を通して

山田錦一郎

練習時間がとても少なかったことが一番の実感でした。コロナ禍で練習が制限され、一週間もなかったくらいでした。

しかし、短い練習時間でも、一日一日充実した練習をすれば、活躍できることも分かりました。

陸上部

仲間の大切さ

堀内　文代

応援は声を出さず、拍手だけ。県大会では選手と顧問以外は立ち入り禁止。コロナ禍で制限されたことが多く、とても大変な大会でしたが、新中陸上部は、お互いに仲間を支え合いました。私は仲間の大切さを学びました。